

## 「自分の力を信じて」

初夏のやわらかな日差しが若葉に降り注ぐ時候となり、1学期もいよいよ折り返しとなりました。5月末に実施された自然学校では5年生が全員無事、楽しい思い出だけを残して帰校することができました。色々なプログラムで初めての体験活動をしたのですが、友達と協力し、絆を深めながら、逃げずに前向きにチャレンジしたからこそ、達成感や充実感を味わえたのだと思います。

さて、私には「自分の力を信じて前向きにチャレンジした」忘れられない教え子があります。私がまだ20代の頃のことです。休み時間に、クラスの子供たちと縄跳びをして遊んでいました。私は縄跳びが得意だったので、色々な跳び方を披露して子供たちに「すごーい！」と言われていました。その中でも一際、目を輝かせていたのがK君でした。K君はクラスで一番運動が苦手で普通跳びもできない男の子でした。K君は、次の日、新しい縄を買ってもらっており、休み時間になると「先生、教えて。」と私の手を引いて運動場に出ました。そこから、K君の縄跳びブームが始まりました。持ち方や跳び方等、縄跳びの基本から練習を始めていきました。「そのうち飽きるかな？」と思っていたのですが、毎日、少しずつですがうまくなっていくので、本人もますます縄跳び熱が加速し、放課後や休みの日も一人で何時間も練習する日々が続きました。さて、K君はどうなったでしょう？何と3学期には、私よりうまくなり、ハヤブサ跳びや三重跳びも軽々こなし、学校一番の縄跳び名人になったのです。1学期に練習を始めた時に、K君がこんなに縄跳びがうまくなるなんてだれも予想できませんでした。ただ、K君だけは「先生みたいに縄跳びが上手に跳べるようになりたい！」という強い意志を持ち、自分の力を信じて努力し続けたので素晴らしい成長を遂げたのだと思います。私は教師でしたがK君から色々なことを教わりました。

どうか若宮っ子も短い一生の間で、自分の可能性を信じて努力する人になってほしいと願うとともに、その子の豊かな人生を演出できる職員集団になれるよう、さらに頑張っていきたいと思います。

今後とも、ご支援、ご協力の程、宜しく願います。

校長 宮武 幹生